

2018年10月31日

糸島市・九州大学・住友理工でフレイルチェックを開始

～産官学協働で健康寿命を延ばす取り組み～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 社長：松井徹）は、糸島市（福岡県）および国立大学法人九州大学との3者による連携協定の枠組みを活用し、「九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島（愛称：ふれあいラボ）」でフレイル（虚弱）を簡易に測定するフレイルチェックを開始しました。



足圧バランス計でバランス能力をチェックする高齢者



糸島市、九州大学、住友理工は2015年12月に、地域包括ケアシステムをはじめとする「健康」「医療」「介護」に関する地域福祉の向上、研究教育活動の推進、技術開発による新産業の創出などを目的として、3者協定を締結。2016年4月には糸島市内にふれあいラボを開設し、市民の皆さまの協力を得ながら、九州大学と住友理工が主体となって新しい技術・製品を研究・開発しています。昨年度からは、地方創生推進交付金を活用し、糸島市と九州大学が共同で「Itoshima Frail Study (IFS)」と題したフレイル予防に関する研究を始めています。

10月よりスタートしたフレイルチェックでは、「手軽に」「ついでに」を基本コンセプトに、九州大学の熊谷秋三教授、岸本裕歩准教授の研究成果に基づくフレイル判定を導入するとともに、クロステストを実施。①生活習慣に関する簡単な質問②運動機能や体組成の測定③結果の説明——の3つのステップで実施し、②では当社が開発した「足圧バランス計」も使用して重心の移動可能範囲を測定し、バランス能力をチェックします。

フレイル^{*}は、加齢とともに身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態で、医療や介護が必要となるリスクが高まります。ひとたび要介護状態に陥ると、改善が難しいため、その手前で発見し、適切な介入・支援で健康状態を改善し、健康寿命を延ばそうとするのがフレイル予防の考え方です。判定方法や基準がまだ確立されていないのが現状で、熊谷教授、岸本准教授によるこのフレイルチェックの取り組みを通じて、より高い精度でフレイルを発見する方法を開発し、さらにはフレイル状態を改善していく研究を加速させます。

当社は、糸島市、九州大学の 3 者の連携をより緊密にし、より多くの方が、より長く心身ともに健康で自立した生活を送れるよう取り組んでまいります。

<フレイルチェックの日程>

日程： 毎週火、水、木曜日（※祝日および年末年始を除く）
会場： 糸島市健康福祉センター「ふれあい」
〒819-1312 福岡県糸島市志摩初 1 番地

<フレイルチェックのお申し込み方法>

- ・ 事前にふれあいラボまでお電話（092-327-8181）でご予約ください。無料。
- ・ ご予約は測定希望日の 30 日前から前日まで受け付けます（当日予約は不可）。
- ・ 動きやすい服装でお越しください。室内運動用の靴をご持参ください。
- ・ フレイルチェックで得たデータは、ご本人の了承を得たうえで、九州大学が研究のために使わせていただきます。ご協力をお願いいたします。

<フレイルチェックに関するお問い合わせ>

糸島市 介護・高齢者支援課

092-332-2070

<九州大学ヘルスケアシステム LABO 糸島（愛称：ふれあいラボ）>

所在地： 〒819-1312 福岡県糸島市志摩初 1 番地
（糸島市健康福祉センター「ふれあい」内）
開所時間： 午前 10 時～午後 4 時
休館日： 日曜日・月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日も休館）
ホームページ：<https://www.fureai-labo.jp/>
電話： 092-327-8181
FAX： 092-327-1560

* 一般社団法人日本老年医学会が 2014 年に提唱した考え方で、フレイルは、英語で虚弱などを意味する「Frailty」をもとにした造語。日本老年医学会は「Frailty には、しかるべき介入により再び健康な状態に戻るといった可逆性が含まれて」おり、「Frailty に陥った高齢者を早期に発見し、適切な介入をすることにより、生活機能の維持・向上を図ることが期待される」とし、「Frailty」の日本語訳として従来の「虚弱」ではなく、「フレイル」を使用している。

<フレイルチェックの価値と将来展望>



熊谷秋三（くまがい・しゅうぞう）教授

九州大学 キャンパスライフ・健康支援センター 教授、博士（医学）
大学院人間環境学府（兼任）
環境発達医学研究センター（兼任）

岸本裕歩（きしもと・ひろ）准教授

九州大学基幹教育院 人文社会科学部門・准教授
【専門分野】
身体活動疫学、予防医学



フレイルとは、年齢を重ねるとともに心や身体の余力が衰え、ストレスに対する抵抗力が弱まっている状態です。わが国ではフレイル予防を市区町村の支援事業の一つとして位置づけ、フレイルの検査とその予防に取り組むことを推奨しています。

フレイルは「体重減少」「疲労感」「歩行速度低下」「筋力低下」および「活動性低下」の5つの判定項目のうち、3つ以上に当てはまることと定義されます。我々九州大学と糸島市は2017年、65～75歳の糸島市民966名を対象にフレイル調査を実施しました。その結果、フレイルの前段階である「プレフレイル」の該当者は約40%、「フレイル」の該当者は約2%でした。

フレイルを予防するには、一人ひとりがフレイルをチェックし、適切な予防法を知り、取り組む必要があります。そこで、糸島市では市民の身近にある公共施設に「フレイルチェックシステム」を常設しました。このシステムでは、60歳以上の市民を対象に、1時間に最大2名を検査する少人数制を取り入れ、看護師や専門スタッフがフレイルチェックを行い、フレイルの状態に合わせた種々の予防事業への参加を支援します。

フレイルの早期発見から早期予防まで、一連の流れを円滑に進められる体制が糸島市内に整いました。この取り組みが将来の要支援・要介護認定率の低下に繋がることを期待しています。

以上

--- 住友理工について ---

住友理工は1929年に創業し、名古屋市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車（モビリティ）分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の制動音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、インフラ・住環境、エレクトロニクス、ヘルスケアの各分野でも事業を展開しています。23ヶ国106拠点に広がるグローバルネットワークを活用して、人・社会・地球の安全・快適・環境に貢献する“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報IR部 / 〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋

tel 052-571-0259 e-mail kouhou@jp.sumitomoriko.com <https://www.sumitomoriko.co.jp/>